

文部科学大臣賞 夫婦愛

鹿児島県 鹿児島純心女子高等学校二年 川田 茜

私には七十三歳の祖父と七十一歳の祖母がいます。祖母は病気を持っています。左手は肩より上には拳がりません。右手も力が入らず、箸を持つのも大変です。いつも痛みを我慢している強い人です。

そんな祖母を世話しているのは祖父です。祖父はガンコな人ですが優しい人です。朝早く起きゴミ捨てをし、朝ご飯をつくり祖母を起こし、長い髪を持つ祖母の髪を結います。食後かたづけをし、掃除をします。夜には、祖母の結っていた髪をおろします。そして床につきます。このような大変忙しい生活を毎日しています。

二人はとても仲がいいです。私の両親にも見習ってほしいほど…。

祖父はお出かけ好きの祖母とスーパーやデパートへ行ったり、ビデオレンタルショップでDVDを借りて一緒に家で見ています。お年寄りをひきつけるなにかがあるのでしょいか、いつも決まって韓国の時代劇ドラマを借りています。それを見るのが祖父と祖母の楽しみようです。

ある日、いつも我慢強い祖父が

「フラフラしっせ頭が痛いだよ。」

と言いました。その夜祖父は倒れてしまいました。皆とても心配して、病院へ行った方がいいと勧めましたが、ガンコな祖父は、

「行かん。行ったらもっと悪くなるし母ちゃん
の世話もせんないかんし。」

と言い、私達も説得することができず、結局病院には行きませんでした。それからまたいつもの生活をしていました。心配だったので、なかあったら電話するようにと祖母に言いました。

翌日の朝、祖母から電話がきました。

「父さんがフラフラして目が回っているらしいの。左足がおぼつかなくて歩けないのよ。」私の母と一緒に病院へ行くことになりました。さすがの祖父も今回抵抗できませんでした。お医者様からは

「なんで早く来なかつたんですか。」

と怒られたそうです。そして祖父は脳こうそく、糖尿病、脳溢血といわれました。そして入院、集中治療室へ。

祖母は、とてもショックを受けていました。そして看病・世話のできない自分を責めつづけていました。食事ものを通らず、十分に睡眠をとることもできず、どんどん痩せ、目もくぼんでいきました。

お見舞の日、祖父は祖母を見て「母ちゃんちと痩せやせんね？ごっそう食べてるね？」祖母は「食べてますよ。大丈夫。」と。こんな状況の中でも互いを心配し合っている二人を見て、私は泣きそうになりました。そして祖母がトイレに行っている間、祖父が私に

「ここは楽やっど、なんもせんくてよかからね。

天国のごっちゃよー。」

「白衣の天使はいるけどまだ天国じゃないよー。」

私の答えに笑ってくれました。そして

「ばあちゃんを頼っでなあ。」

と言いました。

祖父の家に帰り「寂しいねえ。」と祖母とハモってしまいました。いきなりアルバムを見ようよ！という話になり、アルバムを押し入れから取り出し、見ました。アルバムは祖父と祖母が結婚する前の写真でした。

私は一枚の写真に目がとまりました。それは

祖父が学ランを着ている写真です。下には祖母が書いたであろう字で、題名がかいてありました。題名は『わたしの…人』

私は『…』をかくかわいさと、今までは考えられない大胆さと、乙女な心を持つ祖母をかわいいと思いました。私は祖母に写真をみせながら「ばあちゃんって乙女だね。じいちゃんのこと大大好きだったんだね。」と言ったら、「そうだねえ。だったじゃなくて今でも大好きよ。」と顔を赤くしながら言いました。なんて乙女でステキなの！と思いました。まったく見習ってほしいものです。私の母にも。

次のお見舞の日、私は祖父に写真のことを言いました。すると顔をクシャクシャにして「じいちゃんも大好きやっど。嬉しいなあ。」と言いました。その瞬間、嬉しすぎたせいか血圧がピクッと少し上がりました。そして私はなぜか祖父母を二人きりにさせたかったので「お、お腹が！！」とわざとらしいウソを言って、トイレに行くふりをしました。我ながらスバラシイと自賛しました。

そして病室にもどってきた時、祖父から「ありがとうね。ばあちゃんを頼ってなあ。」といわれて、お菓子をもらいました。後で「ありがとう」はどっちの意味なのかな？と思いつながら、もらったお菓子を食べました。

早く元気になって祖母と一緒にDVDを見たり、お茶したり、アルバムを見てほしいなあと思います。

今日も祖母は、祖父のいない家で祖父の分のお茶をつぎ、祖父の回復を願っています。そして祖父は、病院で祖母を思いながら早く回復して祖母の入れたお茶を飲もう！と思い、病院のお茶を飲んでいきます。